令和６年度　第１回　岡山県総合教育会議

日時：令和６年８月 16 日（金）13:10～13:50
場所：岡山県庁３階　第１会議室

【総合政策局長】
定刻となりました。これより令和６年度第１回岡山県総合教育会議を開催させていただきます。
それでは、議事進行を議長である知事にお願いいたします。

【伊原木知事】
本日は、大変お忙しい中、皆さんお集まりいただきましてありがとうございます。
本日、現在策定作業等を進めております「第４次晴れの国おかやま生き活きプラン（仮称)」、「岡山県教育大綱」および「第４次岡山県教育振興基本計画（仮称)」について、意見交換を予定しております。先般、生き活きプランおよび教育振興基本計画については骨子案を、また教育大綱については改定を行う旨、公表し、関係者から幅広くご意見をお伺いしているところでございます。
生き活きプランにおきましては、これまでの取組により、小・中学校ともに全国平均並みまで回復した学力が定着するなど、一定の成果が現れてきているところでございます。その一方で、不登校出現割合が増加傾向にあることなどから、重点戦略の「夢を育む教育県岡山の推進」に、新たに「多様な教育ニーズ支援プログラム」を加え、内容を検討してまいりたいと考えております。
また、教育大綱については、教育を取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、改定内容を検討したいと考えており、教育振興基本計画についても同様に、教育委員会において準備を進めております。
来年度は、プラン、計画の初年度、教育大綱の初改定であり、いいスタートを切りたいと考えており、限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。
それでは、概要等について、まず説明をお願いします。

【教育政策課長】
それでは、「第４次晴れの国おかやま生き活きプラン（仮称)」骨子案につきまして、まずご説明をさせていただきます。
生き活きプラン骨子案の８ページをご覧いただければと思います。
こちらのほうは、重点戦略Ⅱということであります。これまで戦略名につきましては、教育については、「教育県岡山の復活」としておりましたけども、これまで各種施策に取り組んだ結果、学力向上や落ち着いた学習環境の確保等に一定の成果が現れてきていることな

どを踏まえまして、次期プランでは、子どもたちが主体的に学び、社会課題の解決につながる新たな価値や行動を生み出すことができるよう、「夢を育む教育県岡山の推進」を重点戦略名としているところでございます。

続きまして、骨子案の９ページをご覧いただければと思います。

９ページ頭の「３　多様な教育ニーズ支援プログラム」でありますが、誰一人取り残されない学びを実現するよう、学校の指導の改善・充実や学校外での学びの場づくりを進めるプログラムとして、新規として立ち上げるといったものでございます。

続きまして、県教育大綱の改定についてでございます。

次の資料、１枚物の資料をお付けしてあると思いますが、「岡山県教育大綱の改定について」をご覧いただければと思います。

「１　趣旨」にございますように、平成 27 年にこの県教育大綱を策定いたしましたが、その後のＡＩなどの技術革新、社会の価値観等の多様化など、教育を取り巻く環境は大きく変化しております。こうした中にあっても、未来に向けて、子どもたちが自己実現を果たしながら、持続可能な社会の担い手となるよう教育大綱を改定するものでございます。

「３　大綱の内容」のところの（１）基本目標でございますが、夢育の要素を含めて、「夢に向かって、心豊かに、たくましく、未来を拓く」人材の育成としております。

（２）基本方針では、これまでの流れもくみつつ、また国の教育振興基本計画も踏まえまして、６つの基本方針としております。なお、この教育大綱では、施策の根本となる方針をコンパクトにまとめまして、詳細な施策、指標等は、この後ご説明する教育振興基本計画のほうに盛り込もうと考えているところでございます。

それでは続きまして、最後になります３番目、「第４次岡山県教育振興基本計画（仮称）骨子案」の資料をご覧いただければと思います。

骨子案の３ページをご覧いただければと思います。

「１　基本目標」としまして、先ほど申し上げました県教育大綱の基本目標と同じく、「夢に向かって、心豊かに、たくましく、未来を拓く」人材の育成としておるところであります。

「２　育みたい資質能力」ということで、確かな学力と自ら挑戦する意欲や創造性、豊かな心・健やかな体、そして地域を大切にする心と社会の形成者としての自覚、この３点を育みたい資質能力として施策を推進してまいりたいと考えているところでございます。

そして、これらの資質能力を育むため、下の２段落にもありますけれども、すべての子どもたちが誰一人取り残されることなく、互いの価値を尊重し、能力を最大限伸ばせるよう取組を進め、また学校を誰もが通いたくなる魅力ある場所とし、子どもたちが安心して学べる環境を整えることで、しっかり基礎学力を身に付け、課題解決型学習や夢育等の充実を図り、自ら考え、決定できる場面を増やし、子ども真ん中の学校づくりを推進したいと考えているところであります。

次の４ページをお願いいたします。

こちらの４ページ以降は、「計画期間内に取り組む施策の基本的方向性」としまして、教

育大綱と同じく６つの大項目で整理をして、それぞれに主な取組例、それから指標例を挙げているところでございます。
　説明は以上でございます。

【伊原木知事】
　どうもありがとうございました。
　それでは、皆さま方におかれましては、それぞれの資料のどういった取組に力を入れていくべきかなど、お好きなようにご意見をお聞かせいただければと思います。

【教育委員】
　私が思いますのは、岡山県教育振興基本計画の中にある２章の２番に「育みたい資質能力」というのがあるんですけれども、これからの時代は、今もそうなんですけど、天災、台風とかいろいろ、ああいうことが多くて、明日何かしようと思っても地震が来たりとか、そういう予測できない世の中になっています。そうなった時に、自分たちが本当に協力して動ける体制というのをつくるためには、自分が生きる力というのを持っていないといけないと思うので、それこそ今はスマホとか、いろんな便利なものがあるんだけど、そういうものがなくなった時に、どうやって生きていくかというところの基礎を、学校とかでも教えるというか、それを地域とかで教えていくというか。そういう形で、本当に何もなくなった時に、電気も使えない、水も無いとなった時にどうしていくかというところの危機感も、子どもたちに教えていくところもあると思います。
　それは非認知能力の部分ではあると思うんですけど、学校教育の中でも、学校には体育祭とか文化祭とか、いろんなものがあるんですけど、それも精査するというか、本当にこれが教育にとって必要なのかどうなのかというところも、これからは、今までがこうだったからというのではなくて、これからどんどんと新しい形を取り入れて、子どもたちの意見を聞きながら、学校がお膳立てをするのではなく、子どもたちが本当に何をしたいのかということを学校の中でも聞きながら、本当に自分たちがやりたいことというのを模索していくのが大事だと思います。やっぱりそういう非認知能力、自分で生きる力を身に付けさせるということが、これからもとても大事になってくるのではないのかなと、私は感じました。

【教育委員】
　我々は振興基本計画を今議論しているんですけど、最上位の計画であるところの生き活きプラン、そして 2040 年の姿……我々も 2040 年に訪れる姿というのを、より明確に持って行動していかないといけないというふうに思うんですけど、まさに時代を生きておられる今の若者の方々は、2040 年に彼ら、彼女が目指すべき姿というのを、どう今思っていらっしゃるんだろうなというようなことを、今作りながら考えています。できれば、そういった若い世代の方々、この後、パブコメ等があるんですけども、そういった世代が分かる方々

の意見の聴取方法というのができないだろうか。より一層一緒になって、目指していけるようなことができないかなということを思っています。

【教育委員】

先ほどご説明があった「県の目指す教育の姿」の中の基本目標、このページに、心という字がたくさんあって、やはりこれからは、しっかり生徒たちの心を育てていくことが大事だと思っていますし、それがきちんと盛り込まれているんで、とてもいい計画ではないかと思います。メンタルをサポートしていったり、心を育てることで、学習能力とか社会への適応能力とか、大人になってからもしっかり生きていく力というものを身に付けていけるんじゃないかと思います。

あと、生き活きプランの重点戦略の中にも、徳育の部分に、「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合をチェックしていこうという項目があるんですけども、特にこのことなんかは、子どもたちの心を育てるということにものすごくプラスになっていくんだと思います。人を助ければ仲間とつながることができますし、普段あまりやらないことなんで、自発性とか、喜んでもらえれば、自己肯定感みたいなものも養われていくと思います。そうやって心、メンタルが磨かれていくということがとても大事になってくると思いますし、先ほど出てきた、まさしく非認知能力の一番肝の部分が、心を育てていくということだと思います。

また、学校の先生方には、そういったことをしっかり教育していく、授業力の向上という項目がありますけれども、認知能力だけじゃなくて、非認知能力をどう教えていくか、育てていくかということについても、しっかり努力していってもらいたいと思います。

【教育委員】

この生き活きプランの中で、人生 100 年を見据えてということで、100 年あれば相当いろんなことが体験できるかなと思うのですが、でも人生って、夢描いたとおりの生き方ができる人ばっかりじゃないじゃないですか。夢育というのは、夢を描くのはもちろんなんですけど、そうじゃないストーリーに、もしなった場合にも、新しい夢をまたつくって、新しい目標に向かって歩む力が必要かなと思います。要は、課題解決をする力も必要だろうし、挫折をしたら、もうそこでおしまいとかじゃなくて、じゃあ次どうやったら生きていけるかな、どうやったら楽しい 100 年を生きていけるかなという、それを夢描ける力を育てるのが教育なのかなと思うと、人生 100 年を見据えるというのが、すごく私はいいなと思いました。

【教育委員】

まず、生き活きプランのほう、教育のところへ行く前に、「プラン推進の基本姿勢」のところで、さまざまな主体との連携・協働、これは教育のところでも非常に重要だなと思うんですけども、ここを本当にどうやって具体的に担保していくかという辺が、もう少し全体的

に欲しいなということを感じました。特に、そういったときの主体者としての子どもたちを、どう主体者として扱うかというのが、これから非常に重要なのかなと思いますし、特に将来像ですとかそういったところは、やはりこれからの将来、主として社会の中心になるべき世代の人に、もっとこんな姿にしたいというものをしっかりと聞き込みながら落とし込んでいって、それを逆に言うと、上の世代が一緒になってサポートしていくみたいな基本姿勢が要るのかなと。特に、教育のところでいくと、「学ぶ力育成プログラム」というところも、やはり学ぶ力というのは、子どもたち自身が社会に対してしっかりとした役割を自覚した中で、学びが必要だというのが見えてくると思いますので、そういった意味で、今の段階から、特に中学生、高校生ぐらいは、社会の主役として位置付けながら、大人と対等に扱っていく中で学びを深めていく、そんなことが必要になってくるんではないのかなと思っています。

特に今、学習指導要領の社会に開かれた教育課程の根幹が、よりよい学校教育を通じてよりよい社会をつくるという目標を学校と社会が共有し、とあるんですけれども、その地域にとってのよりよい社会ってどんな社会なのかというものを共有するためには、それについてしっかりと地域と学校が議論していかなきゃいけない。その中に、当然生徒たちも一緒に入りながら、この社会、この地域のよりよい社会ってどんな社会なんだというのを議論する中で、おそらく子どもたち自身が、そのためにはどのような資質能力を自分が身に付けなきゃいけないのかということも見えてくるでしょうし、それを学校と地域の大人も一緒になってつくり込んでいく。それが、実は地方創生ですとか人口減少にも直結するのかなと。社会減というのが非常に地域にとって効いてきますから、子どもたちが、自分たちの地域を自分たちでよりよい社会をつくっていけるんだ、自分たちが主体としてやれるんだという部分を中高生時代からやっていって、その延長としてどうしようというところへ考える生徒が増えてくると、よりよい地域、地方創生に繋がってくるかなと。おそらくその辺が、教育だけじゃなしに、いろんな産業にも影響が出てくるかなと思ったりしています。

【中村教育長】

今回、プラン、大綱、それから振興基本計画と、策定するもの２つ、改定するもの１つということで、３つを比べながら見させていただいて、非常に筋が通ってきていい形になってきているなというのは思います。特に、今教育委員会のほうでつくっている振興基本計画、かなり大綱やプランを踏まえながら、より細かくつくり込んでいくという作業に入ってきておりますが、全体を大きくまず捉えるという意味で、３ページの一番下のところになりますが、振興基本計画の骨子案の誰一人取り残さないという大きなメッセージ、そのための学校というものがどういう場所でないといけないかというのを、まずは分かりやすい言葉で大きく打ち出しながら、その次のページ以降で、それぞれ細かく取り組んでいくことをまとめているということで、流れとしていえば非常にいいのかなと思ってあらためて見させていただきました。

中の細かいところに入りますと、４ページの「学ぶ力の育成」のところでは、教員の授業観の転換であるとか、子どもに学びを委ねる場というようなことで、主体が子どもにあり、大人側のいわゆる見方、考え方を転換する必要があると。やはりこの社会の教育の変革で一番大切なのは、実は大人側の変化なのかというふうに私は思っていまして、そこも明確に打ち出せているかなと思っています。知識も必要です。プラス非認知能力というところで、そのバランスも気を付けながら、今作業を進めている、そんなところでございます。

【伊原木知事】

どうもありがとうございました。

１巡目のご意見を伺いました。非常に大きな計画の策定と改定がありますけれども、根本的に違うという話にはなっていないということと、嬉しい意味で意外だったのが、荒れの話が出なかったのはちょっと想像と違いました。随分落ち着いてきましたからね。学力の話も、１巡目で出てこなかったというのは、「おおっ」と思いました。いやそうは言っても、ようやく全国平均に来ただけで、もっともっとここは力を入れてということよりも、それぞれの分野、地域で教育委員というと、皆さんから期待されて、「これも言っておいてくれよ」「ここどうなってんだ」といういろんなご意見を、普通の方よりも教育に関して聞かれていると思うんですけれども、そういうことよりも、むしろ将来に向けた訓練はどうなんだ、心のほうはどうなんだ、地域との関わりどうなんだ、非認知能力どうなんだ、生きる力、人生 100 年、そういうことについてかなり重なるような意見が出たというのは、ああ、そういうことなのかと。地域の皆さんが、子どもたちがこれから 10 年後、20 年後、30 年後、地域の主体として活躍していくに当たって、今から主体なんだという意識を持って関わってもらうということが大事なんだというメッセージを、強く、私自身受け取りました。

まだ時間がありますので、もう１巡、こういう話を聞いてこう思った、もしくは、これもちょっと言っておきたいということがあればお願いします。

【教育委員】

計画とは関係ないのかもしれないんですけれど、今ごみ問題というか、いっぱいごみを捨てる人がいたり、お祭りをするとごみを持って帰らないとか、そういう基本的なことができていない大人も結構いると思うんです。幼少期のころから、きちんと本当の生活の基盤というか、たばこを投げ捨てる人もいますし、そういうところをきちんと押さえて、家庭でも学校でも教えていくこと。

あと、この中にも、たくましいとありましたね。未来を拓く、たくましいのところで、強い心というのが必要だと思うんです。今、ＳＮＳとかでいろんな情報発信があり、インスタグラムとかでもいろんな人の情報が見えるんで、それに対して、自分を持っていると「ああすごいね」と思うけど、そうじゃなく「あの人はいいな」と逆に羨む心が。それも自分が強い心を持たなければできないし、これからどんどんどんどんＳＮＳが発達してきて、いろん

な情報が飛び交う中で、自分はどうあるべきなのかという、自分の基本の線をきちっとしたものをつくらせる学校教育と、家庭の教育、送り出す力、そういうところも両立しながら、地域も関わって、みんなで関わっていくことが、これから本当にどうやってこの子たちが将来生きていくかというところを、今子どもたちと関わって真剣に、人としての基礎のところを育ませていった上で、学力もという形が大事なのかなというところを感じました。

【教育委員】

私は教育委員にならせていただいて 14 年が経つんですけれど、14 年前の子どもたちの実情、世の中というものと比べると、本当に大きく変わったなと思っています。そのころ開かれた学校と定義されていたものと、今の開かれた学校の定義自体も、意識自体も変わってきていると思いますし、何よりも、子どもたちの地域への参画意識であったり、自分たちが地域をつくっていくという意識なり意欲なりというのは、非常に強くなってきているというふうに思っています。これからこの計画を通して、より一層、地域の担い手として、子どもたちが自発的に自ら進んでいくための仕組みづくりというようなことが、大切になってくるのかなと思っています。

あと、計画をつくる時点で、今あまりに速く世の中のピッチが変わっていって、例えば都市部と、郡部というか田舎というのは、教育に対する環境も社会の仕組みも、この 10 年で大きく様変わりするんじゃないかと思っています。変な言い方なんですけど、例えば学校自体、小学校や中学校の統合も出てくるんじゃないかと思っていますし、社会の構造が変わることで、今でしたら、小学生のお子さんの登校に対して、地域の皆さんの見守りが十分できているんですけども、そういった見守りが将来にわたってずっとできるのかと言われると、１つは高齢化社会と人口減少ということで見たときに、地域自体、今の実情から考えていってもフォローできないんじゃないか。そういったことに対して、いかに対処していくのかというような視点を、より一層盛り込んでいくことが必要なんじゃないかなというふうに思います。

【教育委員】

一方で、不登校とかいじめ、こういった問題に対してもしっかり取り組んでいくということは、進めていかなければならないと思います。子どもたちは、学校が嫌なんではなくて、学校教育が嫌で、不登校やいじめが発生しているんではないかと考えなければいけないと思います。「多様な教育ニーズへの支援の充実」いう項目の中に、この不登校とかの対策、施策は書かれてますけれども、世間でも言われている多様性というのは、一人ひとりがきちんと自分の意見を持つということこそが多様性だと思います。ですから、今回の計画で、主体が子どもなんだということとか、学校というのはどういう場所であるべきかということを議論し直すという、先ほどの教育長のお考えには私も賛成します。

学校では、これからは指導ではなくて、教えない教育ということも言われますけれども、

質問を投げかけて、生徒たちから、相手から答えを引き出すようなやり方が大事になってくるんではないかと思います。そうすることで、子どもたちの主体性といったものも育ってくると思いますので、そういった方面のこともしっかり進めていく必要があると思います。

【教育委員】

私も皆さんの意見とすごく近いかもしれませんけれど、先ほど人生 100 年ということがありましたが、いろんな課題を自分で解決する力を育てるのって本当にすごく大事で、挫折をしてうまくいかなくてしんどくなっちゃってという方がたくさんいらっしゃるし、不登校とかいじめもそうですけれども、そこを何かうまく解決できないからそういうことが起きてしまうし、それを受けてしまった人もしんどくなってしまうので、いろんな人がいろんな課題をうまく解決する方法というのを、教育の現場で押さえていくことが大事だと思います。それから多様性ですね。これからは多様性をどうやって受け入れていくか。いじめも結局そうですね。狭い価値観だから、自分と違ったらいじめてしまうということが起きてしまうので、多様性をしっかりと学んでいって受け入れていく力を育てていく。

それからあとは、先生たち、教職員の皆さまが生き生きと仕事ができてないと、子どもたちが、「えっ　大人になってこんなしんどくて嫌だな」みたいになっちゃうとよろしくないので、先生たちが楽しく生き生きと仕事ができるように、私たちが支えていくというか、何かしていかないといけないのかなと思う。子どももそうですけど、先生も含めて、生き生きと仕事ができる、楽しく学校に行きたくなる場を提供できるような努力が要るのかなというふうに考えました。

あともう一つ、今ＡＩがすごい勢いで進んできていて、おそらく教育の在り方そのものももっと変わっていく、この10年変わるんじゃないのかなと思うんですね。10年前の教育と、今のＡＩの進化は全然違うし、スマホが登場する前の世代ですよね、私たちの子どもの頃といえば。Ｚ世代と言われている子どもたちよりも、さらにもっと進化すると思うと、そういった新しいことに大人もしっかりと敏感になって情報をキャッチして、子どもたちの教育に上手に生かしていく必要があるのかなというふうには思いました。

【教育委員】

１点、ちょっと気になったのが、基本計画の「本県が目指す教育の姿」で、「確かな学力と自ら挑戦する意欲や創造性」の、確かな学力というのが非常に分かりにくいなと思いまして。学力って何なんだろう。ついつい、確かな学力というと教科の学力をイメージするんだけど、そうじゃないよなと。私は、何となく学力というと固定されているような気がして、これだけ時代が変化すると、確かな学力という発想よりも、僕は確かな学ぶ力というほうがいいのかなと思ったりしたんです。学力ってどの時点での学力、確かな学力って何か、ちょっと分からなくなって。これからどんどん変化して何が起こるか分からない、そこからどう学んでそれを力にしていけるかという、ある意味で、レジリエンスとか変化への対応力みた

いなものこそが学力なのかなと思いますので、そこら辺の言葉を再度検討してもらったらどうかなというふうに思いました。

先ほども言われましたけれども、どんどんＡＩだとかいろんなものが発展する中で、あらためて人間とは何か、生きるとは何か、ＡＩではできないそこのところをどう突き詰めていけるのか。先ほどの多様性を獲得する、いかに自分の芯を持ちながらも相手を認めるというところからすると、やはり誰かに聞けばというよりは、自らに自らが問うというか、自分自身に問いを立てて自分で考えて自分なりの答えを見出していくというか、そういった部分がより重要になるのかなと。聞けば答えてくれるものが、どんどんＡＩで出てくるので、そうではなくて、そうなんだけど自分はどうなんだという、自分の意見を自分に問い、答えを何か見つけられるか。それを尊重しつつ、相手とコミュニケーション取るとか、そこら辺の力をどうすればいいかというのが、非常に重要になるんだろうなと。確かな学力というのが非常に……その辺も踏まえながら何かあればいいなと思いました。

【中村教育長】

皆さんのいろいろなご意見を聞いていて、あらためてＡＩの時代になっても、確かな知識というのは必要ですし、それだけじゃ駄目で、多様性を受け入れたり、人とうまくやっていったりというのは、小さな社会である学校、人が集まっていてその中でという環境が、私は一番学びとして重要なんじゃないかなと。これだけいろいろなものが発展しても。なので、やっぱり学校を子ども中心に変えていき、子どもたちが、他者との関わりの中で、対話の中でいろんな価値を認めながら、自分の将来についてもしっかり考えていける場にしないといけないということで、あらためて学校教育、そこの部分にしっかり力を入れていかなきゃいけないと。

もう一つは、全体的にこの計画等を見る時に、言葉そのものが難しいところが結構あって、対象の方に本当に、知るとか知っているとかいうレベルではなくて、概念としてしっかり理解されるかというところが大切かなと思っています。今後周知していく上で、言葉にもう少しこだわっていったほうがいいのかなと。本当に難しい言葉になってないかとか、きちっとした概念で伝わるかというのを。今の学習指導要領が非常に難しいと、これは国の会議でも言われていて、もう少しシンプルに分かりやすく伝わるのが大切かなと。そういう意味で、今後、子どもの意見も教育委員会、振興基本計画で聞いていきますので、子どもたちもこれをどう見るのかというあたりも、しっかり見ていかないといけないなと、そういうふうな思いでいます。

【伊原木知事】

ありがとうございました。

単純ですけれども、非常に大事な考え方、もしくはキーワードを教えていただきました。

岡山県教委、夢育というのを打ち出しているわけですけど、〇〇委員が言われた課題解決、

もしくは〇〇委員が言われた問いを立てる、何が問題なのかということに気が付かないという時点で、もう多分、解決は難しいわけであって。発展途上国というのは課題は見えている。国民が飢えているとか、防げるはずのことで人がどんどん死んでいる。これを何とかしなきゃ何とかしなきゃとみんなで頑張ってきて、ある程度、社会が発展してくると、今度は課題が何なのか、みんなが一致する課題ばかりではなくなってきてというときに、自分自身の課題は何なのかというふうに考えられるかどうかって、すごく大事なことです。

プラスの課題、こういう可能性があるんだ、自分はこういう機会を追求していきたいというのが、多分夢ということ。こういう問題が起きている、これを何とかしなきゃというのが、課題ということ。それがプラス方向なのか、今マイナスになっているものを何とかゼロにするかで、呼び名は違っても、自分の、自分たちのこれからの時間とエネルギーを投入して、状態もしくは環境をよくしていく。何かターゲットはここだというのを見つけるセンスだとか、訓練だとか、これをやりたい、これぐらい時間がかかりそうだ、こんな訓練が要りそうだ、こんな人たちの理解、協力が必要だといって解決していく。これも、人生においてもものすごく大事なやり方で、学校を卒業してからも、人生 100 年ということを考えると、必ず大事になってくる。子どもの頃に立てた夢をそのまま追いかけていったら到達するなんていう幸せな人は、ほとんどいないわけで、途中でどう修正をかけていきながら、振り返ってみるとよく頑張ったなといういい人生にするという意味でも、すごく大事だなというふうに思いました。この中に、ＡＩという言葉が入っているのを確認して、ちょっとほっとしましたけれどもね。

あともう一つ、よく親が大人の手本だと、親が家で愚痴ばっかり、けんかばっかりというのは、子どもにとってあまりいいことじゃないよねという話があります。よく考えたら、先生もまさに社会人のお手本であって、先生が生き生きしていると、先生が楽しそうに意欲を持って頑張るのはすごい大事だというのは、倉敷の教育大臣会合のときに２人の大臣から言われて、あらためて「ああ、そうだったよな」と、私の中でずっと気になっていたことなんです。いい教育が、いい授業がという観点だけじゃなくて、私の世代はそれが当たり前だったんで、あまり明示的に意識できていませんでしたけど、子どもたちにとって先生が憧れであったりお手本であったり、「かっこいいな」「ああいうふうに」と。実際に大人になってみると、あんなにみんなが言うことを聞いてくれるわけでもないし、大人同士ではそんなに実力の差はないので、憧れていたようにはなかなかいかないんですよ。でも逆に、子どもが、「うわ、つらそうだな」「大変そうだな」「大人の世界ってあんなのか」って思いながら学校にいるというのは、私は決していいことだとは思えなくて。先生方がはつらつとしていて、元気で、ああいう大人になりたいなと、大人になると、子どもは運転免許を持ってない、あれもできない、これもできないというんじゃなくて、もっといろんなことができるんだと、大きくなるのが楽しみになるような、そういうお手本であってほしいなというのは思いますよね。

ありがとうございました。ぜひいい計画……計画だけ、計画倒れみたいな言葉もあります

が、計画段階でいいものをつくっておかないと実施できないので、現実にきちんと立脚しながらも、後から振り返って、なかなかいい内容を盛り込んでいたじゃないかというふうに極力評価してもらえるような。私はそれぞれの委員の方々の考えが、結構ガツっと根本のところで対立したっていいと思うんですよ。社会が変わっていく過程で、いやいやこれはちょっと違うんじゃないかという議論の中から、何か見えてくるということも十分あるんです。今日の教育会議では、それぞれ影響を及ぼす方々は違う人たちだと思うんですけれども、かなり思いがかぶっていたなということですし、この計画を真っ向から否定するような話でもなかったものですから、自信を持ってこの改定を、途中で微修正をかけることは十分あると思うんですけど、頑張っていきたいなと思ったところでございます。
予定された時間が来たようです。これをもちまして総合教育会議を終了させていただきます。本日は本当にありがとうございました。